

ヒロセ電機株式会社

2021年3月期 第2四半期 決算説明会 Q&A 要旨

Q1：

産機向けに関して、下期の回復をどう見ているか。

A1：

年末から年明けの動向がどう変化するか見えない面もあり、第2四半期に中国向けのFA関連などの回復の兆しはあるが、全体感の見通しは緩やかなものとして全体計画に織り込んでいる。

Q2：

分野別の売上に関して、第3四半期の計画が知りたい。

A2：

四半期毎の分野別売上予想は開示していない。第2四半期から第3四半期の方向性では、自動車向けは回復傾向により売上プラス方向、スマホとコンシューマ向けは第2四半期が高水準ということもありボリューム維持というイメージ。

Q3：

新しい株主還元方針は1年延ばしとなり、2021年5月に発表とのイメージだが、内容に変更はないか、不透明な事業環境下で再検討事項が何かあるか。

A3：

中期的な事業計画をベースとして、キャッシュを見ながら還元を考えていく基本的な考え方は以前の説明の通り。来年の5月に向けて、株主還元の施策も発表できるようにしていきたい。

Q4：

下期のコンシューマと産機向け売上が下がる想定とは、市場に既に減速感が出始めているのか。

A4：

産機向けに関しては、減速感ではなく緩やかな回復で、売上想定は季節性での変化。コンシューマ向けに関しても、第4四半期で季節性の調整が入る見方を想定しているもの。

Q5：

中期成長戦略に変化は出ていないか。

A5：

スマホ向け車載系の中期的な展開を読むのは現時点としては難しいが、ヒロセの目指す方向性、中計の成長イメージに変化はない。今回上方修正したが、まずは今季業績をキープして中期成長に向けての体質強化、機能強化すること。ヒロセの優位性の原点である技術開発力の強化、そして、ものづくり力の強化、合わせてセールスのパワーアップを下期以降注力したい。また市況の変動による多少の修正の対応もしていく。

Q6：

通信インフラ向けの見通しが知りたい。

A6：

5Gインフラ向けは、昨年後半に想定していたより、コロナ影響もあり遅れが出ている印象で先行している中国向けも上期で調整が入っている。これに対し端末側は新製品を積極的に販売しているイメージ。しかし今後もインフラ投資は継続する見込みであり、需要の振れ幅の影響はあるがニーズに対応していく。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。